



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2018年12月1日

12月号・第203号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



(そばの脱穀)



## Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	芋掘りイベント・報告	9
Monthly Repo. ならやま	2	歴文研修会・報告	10
私のふるさと	3	Galleryならやま	11
里山の今	4・5	ならやまプロジェクト	12
ならやま虫だより・花だより	6	行事案内 1	13
水稻栽培体験学習・報告	7	行事案内 2・奈良学クイズ	14
字遊字感	8	幹事会報告・編集後記	15

# 壮春力歩

会長 鈴木 末一

## 活動に伴うマニュアルづくり

時の過ぎゆく速さに戸惑いを隠せません。本会の一年間を振り返ってみますと、近年になく多くの同志を迎えることができました。17年間で4倍近い人数になり、多士済々のそろい踏みであります。諸活動の色々な分野で、ぜひともお持ちのパワーや知識技能などを発揮していただくことを期待しています。

さて、ならやま里山林での公開イベントに例年以上の多くの参加者を迎えることができました。参加者の方々からは、想定以上の賛辞の感想をお寄せいただきました。しかし、それに慢心していることは許されません。

そこで、日常行っている定例活動日における森づくり作業安全管理チェックシートは、活動内容が植林や下刈り除伐などの森づくり作業である場合が主な作業内容と想定し、作業の種類ごとにチェックすべき項目の事例をリストアップしたものがあります。

一般的に森づくり作業に参加する者は、自然物を対象とした作業に不慣れです。このため、森づくり作業を行うに当たっては、多様な作業条件に適応した作業姿勢、作業動作など森づくりに関する幅広い知識と技能を有する指導者の下で行われることが前提となります。このチェックシートは、「森林体験学習等における安全管理手法に関する報告書」(平成18年3月林野庁)に掲載された「安全管理チェックシート」に加筆・修正をしたもので、誌面の関係上それぞれのチェックシートについては記載しませんが、そのような資料を参考にして、ならやまプロジェクト推進体制中の安全推進部門において、より一層充実したマニュアル作成に取り組まなければなりません。活動の主体が会員であるのか、子どもであるのかに関わらず、活動の中にどのようなリスクがあるかを事前に把握し、細心の注意を払ってそれらのリスクへの対処を行うことで、より安全で質の高い活動にしていくことが、指導する立場の大人の大きな

役割であると考えられます。そこで、子どもは大人と違って危険予知能力が相対的に低いこと、つまり、本能的に備えているような直接的な危険に対する認知力はあるとしても、経験によって獲得していく危険を予知し想像する能力は未熟であると考えられます。しかし、まず自分の身は自分で守るという意識を持たせることが重要だと思います。本人が転ばないように、落ちないように、切らないようにというように知識、能力、経験を積ませるための活動の場と考えることが大切ではないかと思います。一方、大人の場合でも、知識、能力、経験などは、千差万別であります。むしろ、大人だからこれくらいのことは理解されているだろうと先入観でもって判断することは、大きなリスクにつながることも限りません。

現状、再点検すべき安全のポイントとして、

- ① 森林作業に新しく参加するメンバーの基礎教育はできているか。
- ② 森林体験に参加する児童・保護者に対する安全マニュアルは十分か。
- ③ 部外者(通行人、通行車両)に対する危険の想定と対策は十分か。
- ④ 万一の事故発生時の緊急時の対応マニュアルはできているのか。
- ⑤ ボランティア活動をしていることで、無意識の甘えはなかっただろうか。

などが考えられます。

ならやまプロジェクト活動のエリアには、サイクリングロードなどの公道が走っています。散策をする人、ジョギングをする人、サイクリングをする人、車で通行する人など、多くの市民が通っています。それらの人たちに何らかのリスクを与えるようなことは絶対あってはいけませんが、万一発生したら、それは重大事故です。当会全体として、基本姿勢について総点検しなければなりません。マニュアル以前の喫緊の重要課題であります。

「ボランティアをしてやっているという気持ちを少しでも思ったことはないだろうか」と自分自身に問いかけつつ・・・。

## Monthly Repo. ならやま

八木 順一

### 10月18日(木) 活動 晴れ 72名 +27名

晴天とサンマの一日。いつも食べているサンマも、仲間と一緒に食べる楽しさとうまさは格別。また、佐保台小児童が稲刈り体験で来訪。里山 G



は遊びの森の倒木処理、エコ G は稲刈りや野菜の収穫、そして景観 G は彩の森の奥ののり面の草刈りに励む。

またビオ班は池の周辺の草刈りや水生生物調査、アジサイの草取りや整備、パト G は1コースのパトロールと倒木処理に取り組む。

### 10月20日(木) イベント 晴れ 31名+66名

天候が心配された朝。10時過ぎには日も顔を出し、開会式後には4つの班に分かれ、イモ堀りに取り組む。大きなイモがゴロゴロ採れ、今年は大豊作か。そのあとは大きさや重さなどを競ってのイモコンテストを実施する。昼には心づくしの豚汁を堪能した後、里山に入っのブランコやバランス等の自然遊びや立ち木の伐採に挑戦。最後には焼き芋を賞味したり、振り返りをして閉会式。参加の顔が輝いた一日だった。

### 10月25日(木) 活動 晴れ 79名

10月の活動も今日で終わり。参加者も多い。新入会員1名。里山 G はイベントの後片付けや水路



の補修、エコ G は稲の脱穀やモミスリ、そして景観 G は実りの森の草刈りに取り組む。またビオ班は池の整備、

花班はジャーマンアイリスや皇帝ダリアの草取り、パト G は2コースのパトロールと丸太階段の補修に取り組む。

### 11月1日(木) 活動 晴れ 73名+4名

今日から終礼の前に道具類の整理、整頓の時間を取る事となる。シニア生2名、見学者2名。里山 G は自然林観察路や駐車場横の倒木処理、エコ G は野菜の苗の移植やエンドウの種まき、そして景観 G は実りの森の草刈りやソバの収穫を行う。またビオ班は備品整備と果樹班と合同で倒れた桜の修復、花班は花の移植や花畑の整備、パト G は観察路の倒木の修復と3コースのパトロールを実施。



### 11月8日(木) 活動 晴れ 82名+2名

暖かい。協働活動はアダプトプログラム。10袋のごみが集まった。また、不法投棄ごみも撤去された。新入会員1名、シニア生2名。里山 G は台風の倒木処理と薪割り、エコ G は秋野菜の収穫とエンドウへのチップ入れ、そして景観 G は第3駐車場横の草刈りと竹林整備に取り組む。またビオ班は池の整備・点検、花班は東花壇の植物の撤去と草取り、パト G は4コースのパトロールと階段の補修を行う。



### 11月15日(木) 活動 晴れ 72名

今日も暖かい。今日からは台風による倒木の処理が始まる。10名程が集まり、実りの森での作業を行う。打ち合わせでは最近おろそかになっている安全への注意喚起が行われる。各 G ではミーティングで徹底されたようだ。里山 G は台風被害木の処理と薪割り、エコ G は野菜の収穫やエスパニアの片付け、そして景観 G は BC 近辺の草刈りと竹林の整備に取り組む。またビオ班は水生生物調査、花班は花壇整理と百日草の移植、パト G は1コースのパトロールと台風被害木の処理を行う。



## 私のふるさと

### 港町尾道、お寺と坂の町尾道

有元 康人

海が見えた、海が見える。5年ぶりに見る尾道の海は懐かしい。林芙美子の放浪記でつづらられている尾道が私の故郷です。

尾道の港としての機能は、平安時代、世羅の大田庄荘園の年貢の積出港として始まったと記されています。江戸時代に入ると北前船の寄港地としてさらに重要視されるようになりました。

蝦夷の、海産物（昆布や干しアワビ等）を荷下ろしする港、また東北地方や九州など日本各地から集められた米や干イワシなどさまざまな商品が集まり、各地に搬出される港になっていきました。

西国街道や石見銀山の銀を運ぶ石見街道も尾道につながっており、海上輸送と共に内陸にも物資が運ばれていきました。

多くの豪商が生まれ商業都市として発展した尾道には、神社仏閣が数多くあり経済力の強さを表しています。

現在の尾道市は平成の市町村合併で因島市や瀬戸田町、御調町までの広範囲になっていますが、当時の尾道は、土堂町、十四日町、久保町の徒歩圏内の狭い3町だけで構成されていました。その尾道が、広島をしのぐ経済力を持っていたそうです。

尾道の政治は、毛利氏の時代から豪商と主従関係を結ぶことで商人に治めさせていたそうです。

江戸時代に入っても豪商による自治体制が続きさらに豪商だけでなく尾道に住む町民からの意見も吸い上げるボトムアップシステムもあったそうです。

私の家も十四日町で代々畳表卸商、雲丹製菓本舗などを営んでいたそうです。私が物心ついた時はすでに廃業しており、唯一覚えているのは畳表を工場で織っているガッチャン、ガッチャンという音だけです、それ以外では育った家が商家独特

の町屋だったことぐらいでしょうか？

私が育った頃の尾道周辺は、日立造船の2工場、尾道造船や中小の造船所が多数あり、造船の町に変わっていました。

尾道水道は大小の船舶で溢れており、捕鯨が行われている頃はシーズン後にメンテナンスに来るキャッチャーボートも数多く見られました。

船の進水式も、いつでも見られる普通の光景でした。

千光寺山の山頂が1500本の桜でピンク色に染まる花見、港まつり、秋田のなまはげに似たべっちゃり祭り、住吉神社の花火などさまざまな祭りがあり現在も続いています。

最近では、しまなみ海道がサイクリングの聖地になり賑わっていると聞きます。

私が子供の頃の思い出は、近所の子と三角ベース、夏休みには海水浴、周辺には、向島の干潮、岩子島、百島、加島などの海水浴場があり近所の悪ガキが集まって泳ぎに行きました。

特に干潮海水浴場には、学校が升を借りており、そこに服を置いて、海にドボン。

子供の頃、一番印象に残っている風景は、向島の高見山から見下ろした瀬戸内海です。

皆さん想像してください。眼下の波一つない瀬戸内海、黒松に覆われた大小の小島が浮かんでいます、そこにそよ風が吹くと、一面にさざ波が立ちます、風の方向が変わると、さざ波が幾重にも幾重にも重なって進んで行きます。そこに一隻の焼玉エンジンの小舟、ポンポンと丸い輪っかの煙を噴き上げながら、さざ波をかき分けて通り過ぎていく姿、時間を忘れて見とれていました。

尾道には、今も実家と、代々の墓があり私が管理していますが、今後どのようにしていくか、これからの課題として残っています。

この会で、尾道出身者は、私以外に3人の先輩がおられます。里山グループの村上さん、エコファームグループの木村さん、景観グループや日本蜜蜂の飼育を担当している中川さん、偶然の出会いですが、多くのご指導をもらいながら楽しく活動をしています。

**里山グループ**

村上 雄之

◆シイタケがヤバイ？

現在里山では800本前後のシイタケの原木を育成中。毎年冬場にコナラ材を150本前後ホダ木として準備しており、今年もその作業に取り掛かる。

ところでシイタケの成育には、ご存知のように温度と湿度の管理が重要で、温度15℃～20℃、湿度60%～90%で、時には冬場のような寒さも必要とか。

◎今年は夏場の猛暑と少雨、9月の台風21号による多数の倒木、枝折れ、落葉の影響で、「遊びの広場」南側に育成中のシイタケ原木が強い日差しを受け、原木がカラカラに乾燥。断射シートで対応中だが残念な原木も多数。収穫減が懸念。

ここ里山の中で温度、湿度、日当りの条件を考えると、「北側斜面皆伐地」の裏側の谷筋や東側の杉林の中の低地が良場と思われ、良く整地後、ここに集約してはどうか。皆様のご意見を。

◎現在シイタケのホダ木にはコナラ材を使用しており毎年20本前後の生木を伐倒する事になります。さらに数年前から発生しナラ枯れによる多量の消滅、自然枯死によりコナラの生木数は2,000本弱あったものがこの数年間で900本台にまで減少している。

ホダ木の年輪を数えてみると20～25年の歳月を要しており現在の植樹数と伐倒後の自然発芽(未調査)では将来コナラが不足する？

一般的にはシイタケ用の原木としてはクヌギ材が使用されているようでコナラに比べて①樹皮が厚く害虫に強い。②伐倒後の萌芽更新がより安定で8年後にはホダ木として使用可能。③根張りが広く風害に強い。ここ里山林もクヌギの数を増してはいかがでしょうか。



**エコファームグループ**

岸谷 和代

◆出番を待つ野菜たち

冬の到来と共に露地野菜がおいしい季節となりました。畑は、一面緑に覆われ出番を待つ野菜でいっぱいです。朝露をたっぶりまとった葉は、みずみずしく輝き、作り手に大きな喜びと元気を与えてくれます。収穫へのゴーサインです。

ほのぼのの市は、大にぎわい。今日もたくさんの野菜たちが並んでいます。

一番人気は、大根。作付面積・顔ぶれも一番。重量あてクイズに登場する最重量級の桜島。ピリッと辛味の緑のわさび・赤が美しい紅心。クリクリ頭の丸大根。でも、やっぱりYRくらま。色白、ツヤ肌美人で食味も特級品。煮てよし、漬けてよし。ひっぱりダコの千両役者です。

純白の球体がキュートな小カブのスワン。白と赤紫のコントラストが魅力の細くて長〜い日野菜。原産は、滋賀県日野町で形は違ってもカブの仲間。独特の食味がお漬物大好き人間にはたまりません。

畑の真ん中でどっかり陣取っているのは白菜たち。青虫に食べられ、水不足にも耐え日ごと貫禄も増し、隣のネギと共に出番は、もうすぐ。

あふれる緑で「今が食べ頃よ！」と合図しているキクナとほうれん草。「あげと青菜のたいたんがおいしいよ！」と小松菜に大和まな。

土の中でゆっくり大家族に成長した里芋一家。親芋、小芋、孫芋、仲良くくっついてバラバラにするのは大仕事。秋のイベント



の主役は、やっぱりさつまいも。赤いほっぺで「こんにちは！」。

リーダーの「手抜いたらあかんよー」の声を共に聞き育った野菜たちは、愛すべきエコの仲間です。

そろそろほのぼの市の始まる時間ですよ！

**景観グループ**

内河 洋文

◆竹林の整備

毎年、春と秋に聞こえてくる JR 東海のテレビ  
コマーシャル『そうだ 京都 行こう』(関東地方  
のみかと思います)。何年か前のその CM の中で  
流れていたナレーション

『わたしは 未来から

お礼を言われるような

すてきな 過去になりたい』

この「ならやま」で活動するようになって、時々  
思い出すお気に入りのフレーズです。

所属する景観グループ整備チームでは「ならや  
ま」全体の草刈りがメインの任務となっている。  
刈払機は「歯」が命です。腰まである一面の雑草  
の中に足を踏み入れ、新品の「歯」で雑草を刈る  
瞬間の何とも言えない爽快な気分は、草刈りを経  
験した人にしか味わえない。その「歯」も何度か  
使っているうちに切れなくなると途端にテンショ  
ンが下がります。今夏は雨が少ない割に雑草の成  
長が早く、草刈りが思うようにはかどりませんで  
した。至る所、雑草が伸び放題です。「ここをし  
てくれ、あそこを刈ってくれ」との要請がたくさん  
あったことでしょう。放置されて背丈まで伸び切  
った草は、二重三重に刈らなければならず、通常  
の倍以上の時間がかかります。雨でぬれた後の草  
刈りはさらに大変です。倒れた雑草を刈って、す  
くいおこし、脇に払いのける一連の作業は、翌日  
の筋肉痛となりますが、おかげで足腰は丈夫にな  
りました。

冬季は竹林の整備などをします。去年は寒風吹  
きすさぶ中で、古竹の切出し、枝落としなどの作  
業をしました。竹の繁殖力は「半端ない」ですな。  
できれば毎年 6 月頃までに、残すタケノコ以外は  
全て切り倒すなどの対策で竹林の美観を保ちたい  
と思う。

私も、未来からお礼を言われる  
ようなすてきな過去になれるかな。  
なれるよう、この「ならやま」で  
の活動を続けて行きたいと思う。



**パトロールグループ**

坂東 由紀子

◆サンキライ (山帰来)

今年 4 月からパトロール班で活動しています。  
その折、小島さんの案内でコース番号を忘れまし  
たが、パトロールいたしました。元気につるを伸  
ばして、足にまとわりつく「サルトリイバラ」を  
除けて歩きながら、子供の頃、母の作った柏餅を  
思い出しました。私の里、岡山では 5 月の節句の  
柏餅の葉は、ハートの形をしたサルトリイバラの  
葉(岡山弁で、ガメの葉、またはドンガメの葉と  
いう)を使っていました。

長じて、学生時代、植物採集に出かけた折、講  
師からこのサルトリイバラは、「サンキライ・山帰  
来」といい、薬草だと教えられ、驚いたことを覚  
えています。根っこは今も、漢方薬として使われ  
ています。

調べてみると江戸時代に伝わったサンキライは、  
とげのない中国南部、東南アジアに自生している  
植物だったようです。しかし今では、このサルト  
リイバラをサンキライと呼んで、お花屋さんで花  
材として、四季折々に使われ、特に、赤い実のつ  
いたつるは、クリスマス用のリースとして売られ  
ています。

数年前、里帰  
りをした折り、竹久  
夢二の生家(瀬戸  
内市邑久町)を訪  
ねました。東京に  
夢二が建てたアト  
リエ付き住宅が、  
その生家より  
500m 程離れた場  
所に復元され、小  
さな美術館になっ  
ておりました。そ  
の住宅の名前が

「少年荘」別名「サンキライ(山帰来)荘」とな  
っており、ハートの形をしたサルトリイバラの葉  
を、連想したことを思い出しました。



**ならやま虫だより**

菊川 年明

◆ならやまの昆虫……今秋の異変

この秋、ならやまではエンマコオロギとイナゴがたいへん少なかった。今夏の異常気象と関係があるのかもしれない。

**\*エンマコオロギ**

今秋はエンマコオロギの鳴き声がほとんど聞こえず、寂しい秋であった。例年なら8月中頃から成虫が現れて鳴き出す。初秋になるとその鳴き声はたくさんになり、草むらの中、枯れ草の下など、諸方から聞こえるようになる。BCの駐車場でも飛び出してきたり、歩いている姿をよく目にした。鳴き声は晩秋まで聞かれる。

エンマコオロギの鳴き声は、図鑑では「コロコロリー」と記されている。鳴き声を文字で表わすのはむずかしいが、よい声であることは間違いなく、スズムシやマツムシに劣るものではない。珍重されないのはたくさんいることが災いしてのことであろう。

**\*イナゴ**

ここで言うイナゴはコバネイナゴである。イナゴにはハネナガイナゴというもう1種近縁のイナゴがいるが、ならやまにはいない。イナゴはわが国では昔からほぼ普遍的に食用にされてきた昆虫で、8月の中頃から成虫が現れる。イナゴはかつてはイネを食害するとして駆除の対象にされ、農薬がまかれて絶滅に近い状態になっていたが、近年はかなり回復してきて、ならやまにはたくさんいるようになっていた。例年なら田んぼのへりを通るとピョンピョン跳ねて、田んぼへ逃げ込んでいたが、今秋は彼らの飛び跳ねる姿をほとんど目にしなかった。



写真：左 エンマコオロギ 右 コバネイナゴ



**ならやま花だより**

桜木 晴代

◆ならやまの黄葉

先日訪れた横浜では、街路樹のイチョウは塩害で茶色に。ならやまの里山林では倒木被害はありましたが例年通り黄色く色づいている木々があります。良く耳にするのは「紅葉」ですが、ならやまは「黄葉」の木が多いようです。

その代表はコシアブラとタカノツメ。黄色く色づいた葉が日に透ける光景には、紅葉とは異なる趣があります。



タカノツメ

- \* ウコギ科
- \* 山地に生育
- \* 葉は三出複葉
- \* 初夏に黄緑色の花
- \* 果実は秋に黒く熟す
- \* 木材は白くて柔らかい (下駄・経木・マッチ棒)
- \* 新芽が鷹の爪に似る



コシアブラ

- \* ウコギ科
- \* 山地に生育
- \* 新芽は食用になる
- \* 木材は柔らかく工芸品に利用 (お鷹ポッポが有名)
- \* 名の由来には諸説あり (漉し油) (漉油) (越油)
- \* 越：中国台州、日本越後

歩いていると、小さいながらも魅力的に色づいている葉っぱにも出会えます。



落葉の頃、里山林に入ると(カラメルのような)甘い香りがするようです。体感してください。

## 育英小学校 5 年生 水稻栽培を体験

鈴木 末一

### わあー豊作だあ

6月11日(月)、5年生の水稻栽培体験学習の手始めとして、田植えの指導に出向いた。

5年生18人が体操服姿で水田前に集合。でも、水田と言っても、一坪半ぐらいの超ミニ水田です。全員に同じように体験してもらうためにはと、思案の揚げ句、一人が二株ずつ植えて、入れ替わりながら体験してもらうことにした。泥の感触にキャーキャー言ったりしていたが、次第に慣れて、一株3本の苗を半時間もかからないうちに作業は無事に終了した。

その後の水田管理は、学校にお任せした。例年のない猛暑と天候不順のために作柄はどうだろうかと気にはなっていた。

第2学期に入り、先生から10月9日(火)に稲刈り実習、10月22日(月)に脱穀ともみ摺り体験をお願いしたいとの連絡があった。

10月9日(火)、学校に到着するや否や、駆けるように水田を見に行った。一株の本数も少ないけれども、稲穂はそれなりに実っているようでひと安心。

のこぎり鎌の扱い方、稲株の持ち方など時間をかけて説明し、いざ体験スタート。今度も一人で二株ずつ交代制での作業となる。

刈り取った稲束は写真のとおりやや寂しかったが、子どもたちが半年近く世話をした育てた稲です。どれぐらいの玄米が取れるだろうか。子どもたちは、期待に胸を膨らませていました。



10月22日(月)、軽トラックに足踏み脱穀機ともみ摺り機を積み込み、学校へと向かう。

午前10時50分ごろから、脱穀ともみ摺りの体験、いよいよ水稻栽培体験学習の総仕上げです。

まず、足踏み脱穀機の動かし方を実習。回転胴の回転方向を間違えたりすると危険なので、ひと通り練習を済ませてから本番です。一束ずつ持ち、全員が体験できるように、太田和則さんの稲束をくくりなおす気づかいもあって無事終了。



▼全員で稲穂の粒だけを選別



子どもたちは、もみ摺り機を通った稲穂が、瞬間に玄米になって出てくるのが不思議らしく、どのような仕組みになっているのかを熱心に尋ねてきた。

収穫できた玄米はわずか一合ほど。どんなに少なからうと、子どもたちにとっては、みんなで世話をした育てたお米。だから全員で「豊作万歳」を三唱して水稻栽培の体験を締めくくった。

来年は、できればもう少し広い水田で体験させてやりたいものだ。



## 男、78歳 いろいろ

## 岡田 安弘

中学で同級の俳優、津川雅彦（本名、加藤雅彦）が肺炎である世に旅立った。直後に開かれた同窓会で黙祷、冥福を祈る。二次会は、加藤の噂話をきっかけに、昭和15年生まれの有名人を酒の肴に盛り上がる。「芸能人、スポーツ選手は多いけど、学者、政治家がおらんなあ。俺らはどっちでもないけど」。無名の我々は笑い合うしかない。

後日、友人がメールで、たくさん名前を送ってきた。78歳の代表は大鵬、王貞治と言う。「巨人・大鵬・卵焼き」が流行語だった。

スポーツ界では他に張本勲、板東英二、芸能界はテント劇場の唐十郎、原田芳雄、中村敦夫、山本圭、作家・評論家は村松友視、立花隆、写真は篠山紀信、将棋の加藤一二三、ジャーナリストの鳥越俊太郎らを列記。

ブルース・リー、ジョン・レノン、リンゴ・スター、ジャック・ニクラウスの名をあげた西洋かぶれもいた。女性はデヴィ・スカルノ（元インドネシア大統領夫人）と浅丘ルリ子ぐらいか。政治家は麻生太郎のほかには思いつかない。

昭和15年生まれは、NHKのTVドラマ「事件記者」を楽しみにした世代だ。私も夢中で観た。かつて加藤は、事件記者になるのが夢だと級友に語っている。多くの記者を輩出した早稲田大をめざし、高校は早稲田実業へ。

祖父のマキノ省三は日本映画の父と言われた映画プロデューサー。阪東妻三郎、片岡千恵蔵、嵐寛寿郎、市川右太衛門らを育てる。兄に長門裕之、叔父は加藤大介、叔母は沢村貞子。

加藤は映画「山椒大夫」で厨子王の少年時代を演じるなど、しばしば子役に使われ、学校の出席日数が不足。どこで留年したのだろう、中学2年に編入してきた。早生まれだから本来なら1学年上のはずだ。

私の幼馴染の同級生が、転勤先の松山に激励に来てくれたことがある。小宴に同席した後輩を前

に「岡田も中学のころから新聞記者になると言っていた」と明かす。私は覚えていない。加藤と同じと言われたのが嫌だった。ライバル心を感じたのは確かだ。初めて経験した嫉妬だったのだろう。

加藤は早速、生徒会長選に立候補した。女性票しか集まらず落選。いや、出馬辞退したのだと言う仲間もいる。みんな記憶があやふや。はっきりしているのは、彼が野球部に入ってきたので私が退部したことだ。

石原裕次郎が日活の「狂った果実」でデビュー。加藤は弟役。津川の名が売れる。もてもての噂ばかり耳にする。デヴィ夫人との恋愛騒動などで仕事を干された。

女優朝丘雪路と結婚、長女で役者の真由子は生後5ヶ月で誘拐される。「借金だらけ、犯人からの要求額があるわけもなし」。こんなことを週刊誌に書かれていた。

津川を偲ぶNHKの番組で、真由子は父を語っている。「トラウマになってはいけなから父は事件のことを教えてくれなかった。中学生になって校長先生から初めて聞いた。母は、私お金あるわよと言ったそうです」。津川の閉ざされた扉を朝丘が開く。

朝丘の葬儀をTVで見た。インタビューを受ける津川は、鼻に酸素吸入器をつけていた。「真由子を産んでくれたこと、(彼女の)家を売ってくれたこと、感謝しかありません」。私は思わず遠くへ思いを馳せた。あれから60余年かあ。

兄の長門を越すのが目標で、主役しか頭になかった津川。叔母の沢村から「お前は顔がいいのだから、芝居は4倍の努力をしないと主役なんか回ってこない」と叱咤され、以後は脇役に徹す。

彼の右翼思想は好きになれないが、晩年の出演には見るべきものがある。伊丹十三作品で本領を発揮し見事に復帰。俳優というよりマキノ一家の秘蔵の役者だったと言いたい。

人の名前ばかりでマスを埋めてしまった。おっと、忘れるところだ。「奈良判定」で名を馳せた日本ボクシング連盟の山根明・前会長と、福島原発事故当時の東電経営トップ、勝俣恒久・元会長が同い年だ。

## イモ掘りイベントと自然観察会 報告

吉村 さつき・吉川 利文

10月20日、朝からぼつりぼつりと雨が降り、心配されましたが、開会式のころにはやみ、佐保台小学校の児童28人はじめ保護者、コーディネーター、未就学児ら合わせて66人の皆さまを無事お迎えすることができました。

開会式での鈴木会長のあいさつは、サツマイモの歴史に関するお話が中心。「なぜ『サツマ』という名がついてる?」「甘藷というのはどういう意味?」などについて勉強しました。続いて、イモ掘り作業についての詳しい説明と注意事項があって、さあ、いよいよイモ掘りです。

第2駐車場の前のイモ畑では、エコファームグループのメンバーが1人5株ずつの区画づくりをしてくれていたため、28人の児童はそれぞれ自分の区画でマイペースで掘っていきました。手伝うお父さん、お母さんたちも童心に帰り、移植ごてやスコップを振るって楽しそう。イモの品種は「紅はるか」。肌が真っ赤で、土から掘り出されると、鮮やかな赤色が畑を埋めました。また、行儀がよいのも特徴で、巨大なブドウのように一本の株に整然と連なって掘り出されるイモもありました。

掘り上げたイモは班ごとに集められ、コンテスト出品の品定め。コンテストは重さ、形の面白さ、ツルの



長さの3種目。重さでは1,500gのでっかい1班のイモが優勝。形の面白さでは、「車」「お尻」、「ヌンチャク」、「ミジンコ」などが競り合いました。参加者の拍手の多さと、エコファームグループから選ばれた小山審査委員長との判定で、4班のミジンコがグランプリです。ツルの長さ比べは、少しでも長くなるようにと知恵を絞ってツルを伸ばしていきます。伸ばし伸ばして245cmに達した4班のツルが1位に。それぞれの順位の班には金、銀、銅、4位の素敵なドングリのメダルが配られ

ました。自分たちのイモを上位に推そうと、会場は拍手と歓声で大いに盛り上がりました。

昼食では、イモ尽くしの料理が振る舞われました。サツマイモたっぷりの豚汁、イモのツルの煮物、イモとイモの葉の天ぷら…。「うちではあまり食べない子なのに、ここでは喜んで食事を楽しんだ」と言うお母さんもおられました。イモのツルの煮物やイモの葉の天ぷらは初めてという保護者も多く、とても喜んでいただけました。

午後からは自然観察会。全員ヘルメットをかぶり、勇ましく山入り。まずは2グループに分かれて“ロープ登山”で「遊びの森」へ向かいます。「よいしょ、よいしょ」とロープを手繰りながら、小さい子もがんばって急な山道を全員登りきることができました。一つのグループはブランコ、木登り、ロープを伝いながら丸木を伝い歩きする「バランス」と、自分に合った遊びを選んで楽しみました。木登りでは、はしごのない木にするするとよじ登り、これまでの高さ記録を更新する子もいました。



その間、別のグループは立ち木伐採。それぞれ革ケース入りののこぎりと剪定ばさみを腰に下げ、まるで、二丁拳銃の“チビっ子カウボーイ”。安全のため、里山グループの平田リーダーから綿密な注意事項を聞き、木の伐採に取りかかりました。のこぎりを持つのが初めての子も多く、伐採しようとした立ち木にのこぎりの歯を取られて悪戦苦闘、お父さんやお母さんに手伝ってもらって何度も挑戦し直す子もいました。剪定ばさみの鋭い切れ味に戸惑いながら、おぼつかない手で枝の筋定もしました。どの子も真剣そのものでした。

保護者の中には、「子供の力を見直した」と、頼もしげに見守っておられる方もいました。

メイン行事が終了し、焼き芋を食べて一服。アンケートに記入した後、シカの折り紙とこの日掘ったサツマイモをお土産に、皆さん家路に着きました。

## 11 月歴史文研修会・報告

## 葛城氏 II

中井 弘



11月6日(火)、夜来の雨も上がり、出発時には青空が広がり始める歴史天気。参加者は定員の27名、マイクロバスで定刻の8時に出発する。

今回のテーマは、4世紀末から5世紀にかけて、金剛・葛城山麓一帯を本拠とし、大王家に比肩する権勢を誇った大豪族・葛城氏の実像に迫ろうという企画である。

まずは、**橿考研付属博物館**での勉強。葛城氏の本拠地の御所市、葛城市で発掘された各種の埴輪や土器などの出土品が、数多く展示されており、ガイドの解説と質疑を交え、じっくり見学する。

ついで、バスは御所市柏原へ。**掖上鍬子塚古墳**は、墳長149mの前方後方墳、5世紀後半の築造である。竪穴式石室に長持形石棺があり、盗掘をうけているが金銅製垂飾や帯金具などが出土し、中国・朝鮮との関係が窺えるという。被葬者は不明だが、葛城円大臣との説もある。

次の目的地、**室宮山古墳**は5分の距離にある。墳丘長238m、葛城地域最大の前方後円墳で、5世紀初頭の築造。葛城地域に君臨した大首長の墓に相応しい威容で、葛城襲津彦を被葬者とする説が有力である。後円部の石室の上から出土した甲冑・靱・盾・家形などの埴輪は、橿考研の主要な展示物となっている。「かもきみの湯」で昼食。

金剛山麓の**高鴨神社**へ。ここは鴨氏一族の氏神であり、京都の賀茂神社を始めとする全国の鴨社の総本宮と称している。葛城には鴨社3社があり、高鴨神社を高鴨社、葛城御歳神社を中鴨社、鴨都波神社を下鴨社と呼ぶ。本殿は室町時代の代表的神社建築で重要文化財。有名な「日本桜草」は、2千鉢以上もあり、4～5月が見ごろである。

県道30号線を北上して**極楽寺**へ。眼下に**南郷遺跡群**が広がる。2.4km<sup>2</sup>の巨大集落跡である。5世紀中葉に営まれ、居館跡をはじめ、高殿や水の祭祀場、大型建物、工房、倉庫などの施設跡や建物跡が検出された。

高殿で有名な**極楽寺ヒビキ遺跡**は、農道を下つ

た稲田にある。事前に地主のご了解をいただいております、立ち入り見学する。高殿の復元模型は橿考研博物館で見てきたので、室宮山古墳の家形埴輪そっくりの巨大な高殿がここに建っていた、と想像しながら一同歴史ロマンに浸る。

ここ南郷遺跡群では、支配者葛城氏による祭りが行われ、渡来人技術者が優遇されて、彼らの指導のもとに手工業の工業団地が営まれ、これが葛城氏の勢力と繁栄の源となったとされる。古川さんは鴨神遺跡で見つかった堅牢な道路は、風の森峠を経て紀ノ川から瀬戸内を経て朝鮮半島と繋がりを、繁栄の基盤となったであろうと……。

繁栄を極めた葛城氏は5世紀の後半に凋落する。大王による全国支配を進めるヤマト王権は、政治の中枢から大豪族の葛城氏を排除する。允恭天皇時代、襲津彦直系の孫、玉田宿禰が誅殺される。その子の円大臣も雄略天皇により反乱の罪で焼き殺されて、葛城本宗家はここに滅亡する。

**飯豊天皇埴口丘陵**へ。被葬者は葛城の血をひく飯豊皇女。雄略天皇没後の権力の空白時代に政治を行つたと伝えられ、宮内庁では「陵」に指定。

最後は鴨氏の祀る**鴨都波神社**。田積さんの話、「争いを好まなかった鴨氏は、全国に散って各地で鴨社を営んだ」との解説に、納得する。

神社の敷地一帯は**鴨都波遺跡**で弥生から古墳前期まで継続して営まれた拠点集落跡。**鴨都波1号墳**は、一辺20m、古墳時代前期の方墳である。三角神獸鏡はじめ装身具、鉄剣など、武器・武具類など豪華な品が出土し、話題を集めた。

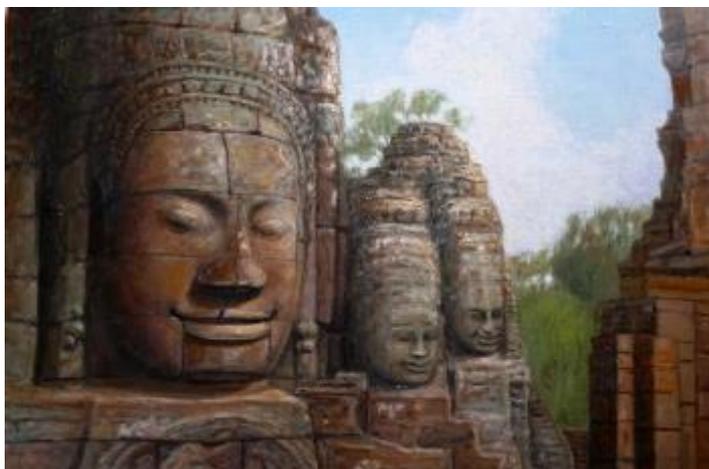
ここで、葛城氏を訪ねた歴史ロマンの旅は終了。一路帰途につく。奈良駅到着 16時10分。

## 極楽寺ヒビキ遺跡 高殿跡





# Gallery ならやま



▲油絵 20号「祈り (バイロン寺院)」 小田 進八郎



▲パステル画「ザクロとカボチャ」 有元 康人



▲写真「長良川鶺鴒い」 坂東 久平



▲クラフト「花車」 鈴木 末一



▲クラフト「クリスマスツリー」 桜木 晴代



▲クラフト「リース」 西谷 範子

皆さまからのご応募お待ちしております。  
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

## 活動予定日

12月	6 (木) 13 (木) 20 (木)
1月	10 (木) 17 (木) 24 (木) 31 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

### ◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
  - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統  
8：28 発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統  
8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7 分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

## 里山

### 12/6 協働活動・アダプトプログラム

楢木用コナラの伐採  
台風被害木の片付け  
薪割り  
(経団連部分皆伐地区の下草刈り)

細い台風被害木の整備

### 13

楢木用コナラの伐採  
台風被害木の後片付け  
薪割り  
細い台風被害木の整備

### 20

台風被害木の片付け  
薪割り



## 景観

### 12/6 協働活動・アダプトプログラム

整備：佐保自然の森の草刈り整備  
ビオ池：西池生物調査  
花：シェードガーデン草取り  
整備、柵作り

### 13

整備：彩りの森竹林伐採及び整備  
ビオ池：近大班タナゴ池調査  
花：花菖蒲園草取り整備  
柵作り

### 20

整備：BC 周辺の清掃・備品の点検整備  
ビオ池：タナゴ池の整備  
花：正月向け整備



## エコファーム

### 12/6 協働活動・アダプトプログラム

芋煮会準備  
冬野菜収穫

### 13

芋煮会運営  
冬野菜収穫

### 20

迎春準備、里芋など収穫／葉牡丹販売



## パトロール

### 12/6 協働活動・アダプトプログラム

4コースパトロール／ミーティング  
落枝片付け／丸太階段補修／その他設備点検

### 13

1コースパトロール／落枝片付け／丸太階段補修

### 20

テント内備品整理／観察路他点検整備



# 行事案内 Part 1

## 忘年会のご案内



今年も残すところあとわずかとなりました。恒例の忘年会を、昨年同様、ホテル リガーレ春日野におきまして、下記要領にて盛大に開催いたします。

開催時刻はできるだけ多くの皆さまにご参加いただけるよう、昼からに設定させていただきました。

会員の皆さまが一堂に会し、思い思いにご歓談いただける数少ない機会です。

何かとご多用のこととは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ぜひとも、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

### 記

1. 日 時：12月10日(月) 12:00～15:00
2. 場 所：ホテル リガーレ春日野  
奈良市法蓮町 757-2 (0742-22-6021)
3. 会 費：4,000円 (ビュッフェスタイル)
4. 申 込：12月6日(木)までに下記担当にお願いいたします。  
青木幸子 辻本信一

5. 交 通：JR 奈良駅、近鉄奈良駅より下記時刻にホテル手配のチャーターバスが出ます。
  - ・ 11:15 JR 奈良駅東出口ロータリー  
一般車両乗降車場付近
  - ・ 11:20 近鉄奈良駅6番出口交番裏(西)側  
ロータリー
 上記チャーターバスに乗り遅れた方は、JR 奈良駅西口(15番乗場)、あるいは近鉄奈良駅前(13番乗場)にて路線バス(西大寺行き)にご乗車の上、佐保小学校前で下車してください。会場のホテルは降りられてすぐ前のところ。
6. 担当幹事：三瀬、桜木、戸田、青木、辻本  
多数の会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

## ならやま、芋煮会のご案内

1. 日 時：12月13日(木) 12時～  
雨天時 12月14日(金)
2. 場 所：ならやまベースキャンプ
3. 会 費：無料 (アルコール類なし)
4. 持ち物：お椀、お皿、コップ、箸 など

鮮やかな紅葉の時期が過ぎ師走の中、今年も日ごろの感謝を込めて芋煮会を盛大に行います。

主役の里芋は、最上川の甚五右エ門と越前大野という伝統里芋です(5～6年続けているので、ならやま産かも)。昨年の種イモを保存し、土作り、夏場の水管理(今年は雨不足で大変)、連作回避などに心掛け、有機無農薬栽培に取り組みました。エコファームグループの皆さんの、野菜への愛情と努力の甲斐があり、良くできています。

甚五右エ門芋をベースにならやま産のゴボウ、人参、大根、シイタケとコンニャク、国産牛肉を存分に入れた芋煮は最高に美味しいと思います。

また、佐保台小学校5年生と会員の皆さんが丹念込めて作った、黒米入りのおにぎり、ならやま産素材の料理をお楽しみください。

会員の皆さまのご参加お待ちしております。

エコファームグループ 富井 忠雄



H30.4.19  
里芋の植  
え付け



H30.11.01  
里芋の収穫

# 行事案内 Part 2



## 1月ならやま活動&行事予告

### \* ならやま活動 (木)

1月10日 初出式(餅搗き)

### \* 歴史文化クラブ主催

1月15日(火) 三輪山初登拝

### ★ 新春講演会 講師：田中 修先生

1月19日(土)

奈良市中部公民館

10時～



## 奈良学クイズ



次の文章は、ある歴史上の人物について記載されたものです。

内外の両門は本(もと)一体たり。漸く極まれば異なるに似たれども善く誘ければ殊(こと)ならず。僕、家を捨てて寺と為して心を帰すること久し。内典を助けんが為(ため)に外書を加え置く。地はこれ伽藍、事すべからく禁戒すべし。庶(こいねがわ)くば、同志を以て入る者は空有に滞ることなく、兼ねて物我を忘れ、異代来たらん者は塵(ちり)を超出して覺地に帰せんことを

問1、この人物名をお答えください。

問2、この文章が、記載されている書物名をお答えください。

【応募方法】メール

【締め切り】12月4日(火)

【正解された方には、○◆△(ミステリー)の物をプレゼントの予定】

## 新春講演会(予告)

「新春講演会」は、甲南大学特別客員教授の田中修先生をお迎えして開催します。

### ◆ 講師プロフィール

1947年京都府生まれ。京都大学農学部卒業、同大学大学院博士課程修了。スミソニアン研究所(アメリカ)博士研究員、甲南大学理工学部教授などを経て、現職。農学博士。専門は、植物生理学。

主な著書に、『植物のかしこい生き方』『植物学「超」入門』(ともにソフトバンク新書)、『植物のひみつ』『植物はすごい』『植物はすごい(七不思議篇)』(すべて中公新書)、『ありがたい植物』『植物のあっぱれな生き方』(ともに幻冬舎新書)ほか。

主な出演番組は、NHKラジオ「夏休み子ども科学電話相談」「カルチャーラジオ」「ラジオ深夜便」、朝日放送ラジオ「おはようパーソナリティ道上洋三です」、NHKテレビ「アインシュタインの眼」、日本テレビ「世界一受けたい授業」BS日テレ「加藤浩次の本気対談『コージ魂』」、朝日放送テレビ「ビーバップハイヒール」など。

### ◆ 講演会概要

1. 日時：平成31年1月19日(土)

AM 10時～11時40分

2. 会場：奈良市中部公民館

奈良市上三条町

近鉄奈良駅から南東へ徒歩7分

3. 演題：「植物たちの生き方に学ぶ」

4. 講演内容：「植物の命はとるに足らない小さなもの」と思われがちです。しかし、植物たちは、私たちと同じしくみで生きており、同じ悩みをもっており、日々懸命に努力しています。このようにお話しすると、「同じしくみというけれど、植物は動きまわれないではないか」とか、「私たちと植物の“同じ悩み”とは、何か」などの反論や疑問がもたれます。これらを掘り下げれば、植物たちが秘めている“ふしぎな力”や“巧みなしくみ”が浮かびあがり、それらに支えられた知恵と工夫に満ちた“植物の生き方”が見えてきます。その中に、私たちが学ぶべきものが多くあるはずです。

## 平成30年・11月度幹事会報告

日時：10月30日(火) 14:00~16:50

場所：奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：19名、欠席者：4名

(議事録よりトピックスのみ)

### I 会長挨拶

\* 「環境市民活動助成金セミナー」に参加。

\* 都市緑化機構に寄稿

「全ては次世代の子どもたちのために」

### II 事務局・会計報告

会員数：171名(新入会2名)

会報誌11月号同封で、最新版会員名簿を配布。

9月度会計報告(収支共に順調)

### III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3か月と当月スケジュールの検討と確認

\* 詳細は、メール連絡又はHPに記載。

2. ならやまプロジェクト関係

\* 当面の課題として、備品管理徹底をする。

(紛失しやすい物にはグループ名を書く)

\* 終了の前、整理の時間を取る。

3. 活動報告と予告：詳細は会報誌掲載

\* 11/29 シニア自然大学校 25周年記念式典

\* 12/3 シニア自然大学校発表会

\* 来年1/19 新春講演会

及び図録表紙デザイン表彰

\* 普通救命救急講習会は申し込み者2名のため、中止、団体申し込みは来年度再考。

\* 来年1/20 シニア自然大学校進路ガイダンス

4. 喫緊・提案事項

台風によりテント崩壊。右奥に新しく建てる。

協働作業を「協働活動」に変更する。

5. 里山G・体験講座

他のGのメンバーから、5~6名程度を募集し、

手作業で出来る仕事を体験してもらう。

### IV 広報関係

会報誌11月号編成案承認(16ページ)

編集チームのメンバー変更

(山中：退任、田代、澤田：新任)

## ◆ 申し合わせ ◆

\* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報(奈良気象台17時発表)で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木

\* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

\* 臨時活動日を月曜日にすることがあります。

(事前に担当役員から連絡します。)



### ◆ 知行合一

「知識だけでは不十分で、重要なのは行動である」との教え。

知行合一は、中国・明の時代に、王陽明がおこした学問・陽明学の命題のひとつであり、論語の為政第二にある「先ず其の言を行い、而して後にこれに従う」が元になっている。

王陽明は、知って行わないのは、未だ知らないことと同じだと主張し、知っている以上は必ず行いにあらわれると述べた。

ならやまの環境保全を大きな目的として色々な取り組みをしていますが、今まで培った経験、知識、能力を発揮して、会員の皆さんが活動されています。ノルマはありませんが効率よく安全に成果を挙げたいものです。

今年も余すところが少なくなりました、良いお年をお迎えください。(行々子)

## 会報誌【ネイチャーなら】・第203号

発行：奈良・人と自然の会

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム：青木(幸)、青木(芳)

千載、戸田、山崎、山中、坂東

### 表紙写真 「そばの脱穀」

刈り取ったそばの穂を丸太にたたきつけての脱穀  
11月4日(日) そばグループ中心の臨時作業